

<b>1【学校経営の理念】</b> ●教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」 ●校訓「貫徹 慎独 創造」 ●校 是「和」		<b>2【本年度の教育の重点課題】</b> 1)自立して未来に挑戦する態度の育成 ○校訓を活かした教育活動の推進・校訓の理念を互いに共有する取組の実践(「貫徹坂」「慎独の道」「創造の庭」で心を育む取組等) ○「あたり前のことがあたり前にできる生徒」の育成を図る。・基本的な礼節、全力清掃、時間動行等 ○主体的活動と「自己教育力」の向上を促し、自立心を高める。・生徒会活動、学年・学級活動、部活動における主体的活動、自治的活動の推進 2)「生きる力」を育む教育の推進 ○「確かな学力」の育成・「主体的・対話的で深い学び」となる授業の創造・情報活用能力の育成、ICTを活用した学習指導の充実 ・授業規律(返事、ハキハキとした発言等)の徹底 ○「豊かな心」の育成・心に響く道徳科での学び、命の尊厳や人権尊重の精神、規範意識を高める教育の推進 ・兵庫の防災教育、国際理解教育、伝統・文化活動、福祉活動の充実・やぶふるとキャリア教育、兵庫型体験教育の充実 ○健やかな体の育成 ・体育科授業や部活動を中心とした体力・運動能力の向上・保健指導・性教育、感染症対応の充実・栄養教諭や家庭と連携した食育の推進 ○特別支援教育の充実・特別支援学級、通級指導の充実 ○小中一貫教育の推進・9年間の学びの連続性を意識した教育の推進 3)子どもたちの学びを支える環境の充実 ○学校の組織力の強化と生徒指導の充実・学級活動や生徒会活動を通じた人間的ふれあいによる指導・いじめ、問題行動、不登校などの未然防止、早期発見、対応・ネットメディア利用についてのルール作りと指導の徹底 ・関係機関との連携の強化(教職員、SC、SSW、保護者、地域も含めて)		
<めざす学校像> ○学ぶ楽しさを感じる学校 ・学習環境の整備 ・授業規律の確立 ・小中一貫教育の推進 ○やる気と活気にあふれる学校 ・自尊心、自己有用感の育成 ・個別最適、協動的な学びの実施 ・個に応じた指導の充実 ○信頼され、安心・安全な学校 ・危機管理体制の充実 ・保護者、地域との連携の強化 ・相談体制の充実 (生徒・保護者・学校)	<めざす生徒像> ○「貫徹」 困難に負けず粘り強くやり抜く生徒 ・活力ある行動力の育成 ・健やかな身体づくり ・地域貢献の実践 ○「慎独」 こころ豊かで思いやりのある生徒 ・人権尊重と慎独の精神の育成 ・道徳実践力の習得 ・郷土愛の育成 ○「創造」 自ら学び個性を伸ばす生徒 ・主体的な学びと確かな学力の向上 ・豊かな表現力の育成	<めざす教職員像> ○信頼される教職員 ・高い使命感、倫理観、授業力 ・誠実かつ迅速な行動 ・生徒への共感的理解 ○教育愛に燃える教職員 ・学び続ける教職員 ・高めあい協働する教職員 ・師弟同行：生徒と向き合い、生徒と共に汗を流し歩む教職員 ○研修に励む教師 ・教えるプロとしての資質能力と指導力を高める教職員	<各項目評価について> A・・・自己評価において達成率が75%以上 B・・・自己評価において達成率が60%以上、75%未満 C・・・自己評価において達成率が60%未満	<学校の取組状況及び改善の方策等について> ○・・・成果 ▲・・・課題、改善点 ※・・・改善の方策等

	主な評価項目・取組内容	各項目評価	達成状況	学校の取組状況(○・▲)及び改善の方策(※)等	学校関係者評価
教育目標・開かれた学校・職場づくり等	1 学校教育目標である「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」は達成されていると思いますか。		B	<教育目標・開かれた学校・職場づくり等について> ○学校教育目標、校訓ともに生徒・保護者に浸透している。 ○職員がそれぞれの役割を果たしている。職員間の雰囲気も良好である。 ○HPの更新が早い。様々な職員が編集に関わっているのがよいと思う。 ○学校HPの存在が更に増している。『校報・八鹿青溪』とあわせて、デジタル・アナログ両面で効果的な情報発信ができています。 ○行事内容の精選を推進し進めることができているように思う。 ○日程、内容など積極的に見直しができている。去年の反省をいかしているものも増えている。 ○来年度も合唱コンクールに併せて、講演会や芸術鑑賞会など文化的な内容を重視した内容を実施したい。 ○体育祭は、3年生を中心に主体性を発揮させる機会も十分確保され、現状の半日日程での実施がよいと考える。 ○内容はかなり精査され、シンプルになってきているように感じる。 ▲なかなか教材研究が進められていないので、時間を確保できるようにしたい。 ※積極的に地域と協働し、地域の人材による授業や取組を考案することでコミュニティスクールを推進できると思う。 ※校内で可能な業務改善は着実に前進している。ただ、教育委員会に送る各種報告書類の作成負担は依然大きく感じる。 ※今年のような学校の様子がよく分かるHPを続けていきたい。 ※生徒会執行部が主体で行う学校行事(体育祭、合唱コンクール)は、生徒の考えを取り入れて行えるようにしていきたい。	<教育目標・開かれた学校・職場づくり等について> ○学校教育の指標を具現化するのには本当に難しいことだと思う。ただ、学校づくりを進める上で、出来る限り、教師にも保護者にも地域にも分かりやすいものであってほしいと思う。 ○教育目標、校訓は生徒に浸透している。 ○合唱コンクールに向けた生徒一人ひとりの努力する姿勢。どこでもあっても気持ちの良いあいさつをする生徒など、学校環境の良さは先生方の取組の成果だと感じた。 ○ホームページの更新が早く、学校での様子を手軽にうかがい知ることができるので、家庭での会話の話題になり保護者としても安心できる。 ○コロナ禍が落ち着いてきて、以前のやり方に戻すのではなく、見直し・改善などの工夫が見られる。 ○地域の行事が減ってきている中で、中学生が参加する機会も少なくなっている。 ○地域の方を学校に呼んで交流する機会を増やすなどコミュニティスクール活動の充実が課題。 ○先生方の負担を少なくすれば、生徒との接し方にも余裕が生まれ、生徒のフォロー・ケアをする時間が増えているのではと思う。 ○数多くの生徒に役割を与えて、やる気・活気につなげてほしい。 ○地域の方々から学ぶことも計画されていて良かったと思う。ふるさとで学びたい気持ち、ふるさとで学んだり体験したりしたことを大人になってからも生かしていきたい...そんな気持ちが湧くような地域からの学びを今後も是非継続してほしい。 ○学校だより(校報)も大切に読ませていただいている。「人として生きるため」のさまざまな指導が生徒一人ひとりの心に受け止められ、学校全体を動かし、成長している様子を見られ、嬉しく思う。
	2 校訓である「貫徹 慎独 創造」の理念は学校教育に生かされ、達成されていると思いますか。		A		
	3 「学校教育目標」と「校訓」は保護者や生徒に浸透し、願いが共有されていると思いますか。		B		
	4 通信の発行やHPによる情報発信、オープンスクール・授業参観等の開催により、「開かれた学校づくり」が推進されていると思いますか。		A		
	5 SSWやSC、保護者・地域等との堅固な協働体制のもと、「チーム八鹿青溪」として組織的に学校運営が行われていると思いますか。		B	A	
	6 コミュニティスクールとして、地域の核となる学校づくりが進められていると思いますか。		B	B	
	7 風通しの良い、ハラスメントのない職場づくりが推進されていると思いますか。		A	A	
	8 「勤務時間の適正化」によりワークライフバランスが保たれ、生徒と関わる時間の確保や自分自身の充実が図られていると思いますか。		B	B	
	9 学校行事は生徒の主体性を培う内容・方法で行われていると思いますか。		A	A	
教科等指導	10 「確かな学力」の定着を図る教育活動が推進されていると思いますか。		B	<教科等指導について> ○授業改善が進んでいるのが分かる。 ○生徒が主体的に思考する(思考させる)授業が増えているように感じる。 ○対話的な授業は充実していると思う。日々の発表・調べ学習後の発表の機会も意図的に増やしていければなお良い。 ○学校は全体として一定の落ち着いたペースを維持できた。授業が充実しているということが大きいと思う。 ○タブレットや電子黒板を有効に活用している教員が多い。 ○英語の授業は、毎時間T2の教員やALTが入って、手厚く指導していても良い。 ※学習指導要領に記載されている内容に沿うように、またこの先求められる力は何かを考えながら授業を作ること意識してはいるが、「個別最適な学び」ができていないかと聞かれると一斉授業では難しいと感じる時もある。机間指導でフォローをすることや相談に乗ることなどだけでは追いつかない部分もあるの現状だと感じるので、より良いアイデアが知りたい。 ※個別最適な学びの視点に立った授業改善について自分はまだできていないので、勉強していきたい。	<教科等指導について> ○学習や生活等すべての根幹は、学校経営方針に基づく学級経営(学級づくり)であると思う。教科指導、部活動等すべての諸教育活動は教師の役割が大きい、学級集団を良い状況に作りあげることがすべてにつながるのではないと思う。 ○学習態度、あいさつ、掃除など生徒の動きは好印象である。 ○対話的授業、タブレットの活用、少人数授業、ALTが入った授業などいろいろな取組が生徒の学ぶ意欲につながっていると思う。今後いろいろな取組に期待する。 ○授業内容や方法を工夫していこう意識されているとは思いますが、生徒個々に合った授業ができているのが課題のように感じる。 ○タブレット・電子黒板を利用した授業ではさまざまな資料や教材、動画が提示でき、生徒も理解しやすいように思う。 ○教室の生徒の姿勢に感心した。集中して話を聞き、また、自分の思いも発表し、授業中の教師と生徒間のキャッチボールも自然に出来ていてとても素晴らしい。 ○グループ学習も取り入れられ、男女を問わず誰とでも生徒間の話し合いが出来、学習が進められている。助け合い学習で一人ひとりの力をつけていくことの大切さを感じた。真剣さや笑顔やいろいろな表情を見せてくれ、ほほえましかった。
	11 授業時数の確保が図られ、教育課程が適正に管理されていると思いますか。		A		
	12 発達段階、教科の特性に応じた学習規律が確立されていると思いますか。		A		
	13 生徒の学ぶ意欲・関心(主体性)は高まっていると思いますか。		B		
	14 TT(同室複数)指導、少人数指導の運用は適正・効果的だと思いますか。		A	B	
	15 基礎・基本の定着は図られていると思いますか。		B	B	
	16 個を伸ばす指導や個への配慮に努めていると思いますか。		B	B	
	17 新学習指導要領の移行措置に適切に対応するとともに、「主体的・対話的で深い学び」からの授業改善に努めていると思いますか。		B	B	
	18 生徒は総合的な学習の時間に意欲的・主体的に取り組んでいると思いますか。		B	B	
	19 食育計画に基づき、組織的・計画的に食育指導が行われていると思いますか。		A	A	
小中一貫教育	20 小中一貫教育のねらいである「中1ギャップの解消」「学力向上」「地域の活性化」に沿った取組が行われていると思いますか。		A	<小中一貫教育について> ○個人目標を立てる時に、草庵先生の教えを基にして考える時間を設けた。 ○そうあんの日は、終活でそのことについて触れ、自分ログに家で生活のことやお手伝いしたことなどを書いている生徒が増えた。 ○6年生登校時の縦割り掃除はリーダーが的確に指示を出していた。 ▲相互授業参観があまり進まなかったのが残念ではある。次年度は進めたい。 ▲まなび部会の目標を設定したが、その目標を意識できていないことが多い。 ※小中一貫教育の推進によって、「中1ギャップの解消」の効果は期待できるが、「地域の活性化」まで効果があるとは思えない。 ※そうあんの日の取組について、生徒会活動の中で呼びかけるなど生徒の意識向上を図ってはどうかと考える。 ※「そうあんの日」に池田草庵先生の教えやエピソードをミニコラムにまとめて紹介するという方法もある。放送を担当する生徒にも活躍の機会を与えることができる。	<小中一貫教育について> ○小中一貫教育については、市の方針に従って努力しているとは思いますが、関宮学園のような状況ではないような気がする。今後も中学校生活の状況を踏まえ、夢や希望を一層醸成することが良いのではないかと感じる。 ○6年生が年3回中学校に登校した体験で「中1ギャップ解消」の効果も期待できるが、体験した6年生の感想を聞きたい。 ○6年生登校では、中学生においても自分を見つめ直す機会となり、中学生としての自覚につながっていると感じている。
	21 小中一貫教育は、組織的・系統的・計画的に推進されていると思いますか。		B		
	22 小中一貫教育(6年生登校、部会、全体会等)を通して、校区小学校の教職員や児童への理解が深まっていると思いますか。		A		
	23 「そうあんの先生」の教えと「そうあんの日」の取組は組織的・系統的に推進されていると思いますか。		B		
キャリア教育	24 「自己教育力」を促す指導、自律性を高める指導が推進されていると思いますか。		B	<キャリア教育について> ○キャリアノートの記入は各学年、確実に進んでいる。 ○あたり前のことがあたり前にできる生徒が育っている。 ▲提案には4観点を書かれていないものもある。 ▲キャリア教育の視点・観点を忘れてしまう or 意識できていないことが多く、反省点である。 ※教科ごとにキャリアや進路に関する内容と結びつけていきたい。	<キャリア教育について> ○激動する社会の中で、いろいろなことが求められる時代である。生徒たちにどのような力をつけていく必要があるのかが問われているのだから、本当に幅広く難しく思っている。難解な言葉である。 ○将来の夢、目標を持っている生徒が多いのは、キャリア教育の成果でもあると思う。 ○あたり前のことがあたり前にできている。素晴らしい。 ○キャリアノートの継続的な記入によって自立性を高める指導ができているように思う。 ○ノートの記入頻度、内容、指導方法などは適時見直し、さらにより良いものにしていただきたい。
	25 あたり前のことがあたり前にできる生徒の育成が図られていると思いますか。		A		
	26 キャリア教育は生徒の発達や学年の系統性を踏まえた内容・実践になっていると思いますか。		B		
	27 生徒が主体的に進路選択・決定ができるような指導がなされていると思いますか。		A		

	主な評価項目・取組内容	各 項 評 価 R5	達 成 状 況	学校の取組状況(○・▲)及び改善の方策(※)等	学校関係者評価
特別 支 援 教 育 ・ 道 徳 教 育 ・ 人 権 教 育 ・ 課 題 教 育	28 インクルーシブ教育システムの構築に向けて、施設や設備の整備、教材や指導体制等の工夫が図られていると思いますか。	A		<特別支援教育・道徳教育・人権教育・課題教育について> <特別支援教育> ○丁寧な通級指導が行えている。 ※各部会に特別支援コーディネーターも参加し、特別支援の観点からの対応外部との連携をとることは重要だ。 ※保護者と連絡を密に取ることは担任だけではなく、多くの教員がすべきことだ。 ※通級の指導記録を全職員が閲覧することで情報共有が深まる。 ※要支援生徒の「こんな特性が見えた」「こんなことでトラブルになった」「こんな支援がうまくいった」「こんな言葉で元気になった」という情報も生徒指導日誌で共有できれば支援が進展する。 <道徳教育> ○道徳科は研修を通して前進のあった1年だった。 ○各学年の道徳科担当を中心に多くの教員が授業に関わったことや研修に力を入れたことによって意識が高まったように思う。またどんな学びをしてほしいかを視点にした授業作りに努めている教員が多いと思う。ただ、生徒の行動の変化として表れてくるまでは時間がかかるものでもあると思うので、粘り強く続けることが大切だ。 ▲道徳科の授業に対する教師の意識は向上している。ただし、評価についてはさらなる研鑽が必要。 ▲「道徳科」という教科名がまだ定着していないのは残念である。 <人権教育> ○人権教育を推進するためにはまずは教員が学ぶことが重要であることが分かった1年であった。 ○LGBTQの授業ができたことはとてもよかった。生徒もそのような内容の学習を求めているように感じた。 ○研修を踏まえ、道徳科で人権に関する授業を行えたのは大きな前進。 ○研修を受けてから去年より自分自身が「人権」について考える機会が増えたのがあるがよかった。 ○研修で同和教育への意識が高まった。 ○性的マイノリティについての授業ができたのはよかったと思う。 <防災教育> ○不審者対応研修で実際に実践研修が行えたのは良かった。横断歩道を渡る時、待ってもらっている車に礼をする生徒が増えた。 ▲下校時のバスロータリーから道路を渡るときや徒歩通の生徒に対して「危ない」と声をかけたり、道幅3列下校などを注意したりすることがたまにある。教員の呼びかけだけではなく、一度自分たちで考える場を作っても良いのではないかとと思う。	<特別支援教育・道徳教育・人権教育・課題教育について> ○情報機器の発達には本当に早く、中学生もパソコンやスマホを日常的に使う時代である。学校も本当に多忙中ではあるが、適切なアドバイスや指導を行っていくことも必要ではないかと考える。 ○道徳教育の研修、人権教育の研修を積極的に取り入れ、努力しており「豊かな心の育成」に向けた教育が進んで居ると思う。そのため、人を思いやる気持ち、気遣いの出来る生徒が増えたと思う。 ○生徒と先生が良好な関係を築きながら、生徒に対して親身になって指導されていると思う。 ○保護者・生徒・先生でのさまざまな情報共有ができていていると思う。 ○今後も心の教育や道徳性を養う教育にさらに力を注いでいただきたい。 ○評価や指導が先生により差が出ないように配慮していただきたい。 ○生徒の些細な変化を見逃さずに汲み取っていただきたい。 ○知らなかったということや人を傷つけてしまうことがないように、多様性についての課題や理解を深める教育を今後も定期的に行っていたらいい。 ○忘れたころに起きるのが災害や事故なので、定期的に注意喚起する教育は大切だと思う。 ○登下校時に徒歩通の生徒で危険を感じることもある。車が通るのに一列にならないのは危険だ。
	29 校内教育支援委員会のもと、個別の指導計画・教育支援計画が作成され、全職員の共通理解のもと、個に応じた指導・支援が組織的に行われていると思いますか。	B			
	30 生徒や保護者との合意形成のもと、小中・中高の「支援の引継ぎ」が組織的・継続的に行われていると思いますか。	B			
	31 「豊かな心」の育成を図る教育活動が推進されていると思いますか。	A			
	32 自他の生命を尊重する態度は育ちつつあると思いますか。	A B			
	33 「教科書」をはじめ「兵庫版道徳教育副読本」が効果的に活用されていると思いますか。	B			
	34 道徳の評価を行うにあたり、学年職員で協力して評価内容・方法の検討を行ったり、共通実践を行ったりしていますか。	A			
	35 ネットいじめやDV、多文化共生、男女共生、性的マイノリティなどの人権課題をとりあげ、校内研修を行うなど、人権尊重の精神涵養に向けた取り組みが進められていると思いますか。	A			
36 防災教育など、健康・安全に対する指導は、的確に行われていると思いますか。	B				
学級 活 動 ・ 生 徒 会 ・ 部 活 動	37 生徒の自治性や主体性を引き出す生徒会活動が行われていると思いますか。	B		<学級活動・生徒会活動・部活動について> <学級活動> ○学級掲示が充実している。清掃も行き届いている。 ○環境整備を教師だけではなく、生徒たち自身で整えていく意識を持ってもらうための声かけを意識している。 ▲環境面で、エアコン使用中に加湿器がついていない教室も見られた。空気清浄機自体が汚れていることもあった。 ※今後、生徒・職員ともに減っていくと思われるので、「学年」の域に捉われず、全体を見ていく必要がある場面が増えると思う。 ※「協力」「支え合い」「助け合い」などの言葉を朝のHRや折に触れて伝えている成果が感じられる一方で、大人の目がないところでは悲しい思いをしている生徒もいると思うので、難しいと感じる部分でもある。 <生徒会活動> ※継続意見だが、「全校草取り大会」等、遊び心と奉仕精神を兼ねた、無理なく実施できる生徒会行事を期待したい。 <部活動> ○部活で居場所を得ていたり、人間的な成長を見せる生徒も本校には多いと思える。 ○部活動を元気に頑張る生徒はその他生活についても充実しているように見える。 ※授業だけでなく、部活動でも支援が必要な生徒が多い。不登校傾向の生徒も多いため、受け皿になるような部活動(文化部系)が必要。学校に生徒の居場所を作っていくことが大切だと思う。 ※活動日や活動時間を減らし生徒も教員ももっとゆとりの持てるようにしていく必要がある。 ※部活動があるため教科指導がやりにくい現状にある。教員側から居残り学習をさせたり、生徒が残って学習をできるという日があっても良いと思う。	<学級活動・生徒会活動・部活動について> ○部活動の指導は本当にたいへんだと思う。先生方には働き方改革、健康管理等々の問題もあることは承知しているが、生徒たちのために頑張ってもらいたいと思っている。 ○今現在、多くの生徒が入部し、活発に活動しているが、その反面、先生方の時間外超過勤務、指導負担など改善すべき問題点はあると思う。 ○いつ学校を訪問しても校舎内外がきれいに保たれていて気持ちがいい。 ○校内の掲示版で生徒たちの取組がよく分かる。 ○部活動も地域への移行という方向性があるので、地域で指導できる方をお願いして、大会などがなく、勝敗や成績が関係しない文化系の部活を増やせば受け皿になるのではないかとと思う。 ○先生の部活での負担を軽減し、その分、生徒をフォローする時間に使っていただきたい。 ○生徒たちで練習メニューを作ることも意欲向上のためにしても良いのではないかと。
	38 専門委員会の活動は継続的・発展的に行われていると思いますか。	A			
	39 互いに高めあおうとする集団になりつつあると思いますか。	B B			
	40 部活動を通して生涯学習・スポーツの基礎となる豊かな心やたくましい体が育っていると思いますか。	A			
	41 一人一人が生かされる学級づくりができつつあると思いますか。	B			
生 徒 指 導	42 規範意識の育成に努めていると思いますか。	A		<生徒指導について> ○全体で話すことなどの共通理解ができているように思う ○担任が細やかに家庭連絡や関係機関との連携を密に行っており、保護者との信頼関係の構築に努めていると感じている。担任ばかりに負わず、学年全体で支えたい。 ○生徒指導主事を中心に、未然防止対策の意思疎通ができていると思う。 ○生徒の姿を見ると、教員が生徒理解に努めながらきめ細やかな指導をしていることが分かる。 ○全体的には保護者の姿勢が以前より協力的であり、学校の落ち着いた空気が保たれている。 ○アンケートが定期的実施されており、生徒指導や個別相談に役立っている。 ▲自分を含め、生徒指導面で生徒指導主事の存在感や指導・判断に頼っているところがある。 ※たとえどんな人事異動があったとしても現在の生徒指導体制は堅持しなくてはならない。 ※自律心についてはかなり個人差があり、二極化が進んでいると感じる。 ※時間を守らせる指導をこころもしていく必要がある。(時間オーバーの授業をしない、移動教室は少し早めに終わるなど) ※ルールや生活の部分でももう少し時代に合わせたり、子ども達に委ねてもよいと感じることがある。 ※どんなことがあっても体罰は許さないという姿勢を持ち続けたい。	<生徒指導について> ○適確な対応をしているとは思いますが、学校は受け入れた生徒たちを一番に、社会の変化や多様な価値観もある中で、いじめや不登校等の問題に全力をあげて取り組んでほしいと思う。 ○男女の隔たりにない、人に対するの優しさ、元気なあいさつ、いじめを許さないなど学校の雰囲気の良いのは良い指導をしているからだと思う。定期的に実施されるアンケートも良い取組である。 ○今後も困りごとや悩みごとの相談がいつでもできる雰囲気づくりを心がけていただきたい。 ○生徒と先生、学校と家庭とで概ね信頼関係、相互理解ができているように思う。 ○これからも小さなSOSを見逃すことがないように注意深く生徒に寄り添っていただきたい。 ○まず大人が手本となることが大切だと思う。 ○愛情と熱意を持って取り組んでいただきありがたい。 ○多感な年齢だが、安心して学校に通わせることができている。 ○子どもたちがお世話になっていること感謝している。ただ子どもたちの生活の約束事については、やや細かい所があると思う。また、約束事の理由が分かりにくい面もあり丁寧に説明する必要がある。
	43 いじめの積極的認知や生徒指導に係る情報交換が行われ、安心・安全な学校づくりが進められていると思いますか。	A			
	44 i-チェックや生活アンケート、いじめアンケート等による実態把握や教育相談等を通して、生徒理解を深める工夫がされていると思いますか。	A			
	45 生徒指導の4機能(自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的人間関係を育成する、安心安全な風土づくり)を意識した指導を行っていると思いますか。	A			
	46 家庭と連携した指導がとれていると思いますか。	A			
	47 指導に対する教職員間の共通理解、「報連相」は十分にできていると思いますか。	B			
	研 修 ・ 資 質 向 上	48 職員研修の推進方法・内容は現状でよいと思いますか。	A		<職員研修・教職員の育成・資質の向上・その他について> ○体罰事案など事例に基づいた研修を取り入れ、実践的な研修を行った。 ○現状でもまずまずの体制ではあると思うが、さらなる研修体制の充実を図りたいものである。 ○今年度は道徳科を中心に、他の研修も、講師のおかげで質の高い研修になった。 ○同じ教科の教員で、良い意味で気軽に意見交換をしている姿を見る。同教科に複数教員が在籍する本校の良さが発揮されている。 ▲他の教員の授業を見に行くことができていない。学ぼうとする意識をもっと持ちたいと思う。 ※同じ教科同士の教員や小学校訪問などの授業参観の機会を増やせればと思う。 ※全体研修が多すぎると感じる。もっとゆとりを持ってそれぞれにあった時間がとれるようにしても良いのではと感じる。
49 兵庫県資質向上指標に基づきながら、「確かな学力」を育成できる教師として常に教材研究や修養に努めていると思いますか。		B B			
50 指導力向上、学力向上に向け、授業参観や助言を行うなど、互いの力量を高める努力を行っていると思いますか。		B			